

始



ヤコフ・チェルニホフ編

建築ファンタジア

デ・コパニツィン

イエ・バヴロヴ

参興作製

彩色構成圖一〇一圖

建築縮圖一〇一圖

〔原書への邦譯附録〕

レーニンград一九三三年 聯邦國際書籍聯合・版

特 216
791

建築ファンタジア



緒言	1
I 建築的形態化の様體	5
II 技術的過程	11
III 描出方法	17
III 製圖的過程	20
V 表現の手法と様態	27
VI 建築企圖表示の手段	30
VII 建築ファンタジア構成の根本法則	33



彩色構成圖

— 目次 —

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 輕工業の實驗所=宮殿 | 17 空想的建築考案—〔X〕 |
| 2 鐵骨的工場建築 | 18 空想的考案—〔Y〕 |
| 3 築控壁を有する構成的工場
建造物 | 19 劇場の線圖的構成圖〔II〕 |
| 4 〔産業のお伽噺〕の一群から
—〔A〕 | 20 建築コンポジションの考案 |
| 5 特殊な使命を有する空想的
建築 | 21 劇場の線圖的構成圖〔III〕 |
| 6 結合集成された建造物 | 22 明白に構造的な建造物—
設立場 |
| 7 塔のシステムによる化學工
場 | 23 縦軸的モノリス的構造の建
築物 |
| 8 〔産業のお伽噺〕の一群から
—〔B〕 | 24 實驗工場を有する高等工業
學校 |
| 9 強力な露出せる機械的設立
物 | 25 物體の電氣仕上げ工場 |
| 10 巨大摩天樓都市—〔M〕 | 26 飛行機用ガス及び油の企業
結合 |
| 11 建造物の集成された巨體 | 27 鐵骨起重機及び陸橋を有す
る工場 |
| 12 集團型の建造物 | 28 空間組織の幻想的構成圖 |
| 13 全一體に完成された摩天樓 | 29 公共用のモノリス的建築 |
| 14 建築コンポジションの考案 | 30 堅固な普通工場建築—〔A〕 |
| 15 巨大摩天樓都市—〔N〕 | 31 堅固な普通工場建築—〔B〕 |
| 16 劇場の線圖的構成圖—〔I〕 | 32 民間的性質の純然たるモノ
リス的建築 |

I

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 33 體育文化の中央州會館 | コンポジション |
| 34 簡潔にして構造的な工場建
・造物 | 48 建造物の調和的立體・平面
圖的結合 |
| 35 特殊な使命を有する建
築—〔M〕 | 49 複雑な型の建築考案 |
| 36 縦軸的建造の表現せられた
デモンストレーション | 50 特殊な使命を有つ企業聯合
コンビナート |
| 37 特殊な使命を有する建
築—〔N〕 | 51 螺旋形幹狀道路における建
築考案 |
| 38 特殊な使命を有する建
築—〔P〕 | 52 機械化された化學企業聯合
コンビナート |
| 39 強力な鐵骨支柱に支へられ
た建造物 | 53 社會主義都市のアクソノメ
トリヤ的表現 |
| 40 空間の嚴肅な律動的な組織
化 | 54 一地區の設計の表示 |
| 41 コークス・ベンゾールの企
業聯合…………… | 55 機能的工場都市のアクソノ
メトリヤ |
| 42 表現された重量性とモノリ
ス性 | 56 考案せられた空想建築的ス
ケッチ |
| 43 機械的都市のアクソノメト
リヤ | 57 律動的構成における建造物
の集團 |
| 44 機能的建造物のアクソノメ
トリヤ | 58 新らしい産業都市のアクソ
ノメトリヤ |
| 45 明瞭な立體・平面圖的建築
コンポジション | 59 空間的劇場コンポジション |
| 46 代表的な立體・平面圖的コ
ンポジション | 60 混成構造の堅固な鐵骨的設
立物 |
| 47 集成された立體平面圖的コ
ンポジション | 61 堅固な鐵梁木造設立物 |
| | 62 金屬梁造の拍持臺=支柱 |
| | 63 鐵コンクリート及び金屬の
梁材より成る建造物 |
| | 64 表示的線圖的コンポジショ
ン |

II

- | | |
|---|--|
| 65 表示的線圖のアクソノメ
リヤ ^{L A} | 85 或る視點よりの鳥瞰圖 |
| 66 表示的線圖のアクソノメ
リヤ ^{L B} | 86 立體・平面圖的アクソメ
トリヤ |
| 67 建造物の独自の線圖の表現 | 87 錯覺的性質の建築案 |
| 68 空想的建築考案 ^{L S} | 88 建築的錯覺的考案 |
| 69 特殊な使命を有する複雑な
建築 ^{L S} | 89 線圖的考案的コンポジシ
ョ |
| 70 機能的移送システムの工場 | 90 集團型の産業建築物 |
| 71 集成された建築物の複雑な
結合體 | 91 立體・平面圖的アクソノメ
トリヤ的コンポジシ
ョ ^{L K} |
| 72 巨大な鐵骨構造物 | 92 立體・平面圖的アクソノメ
トリヤ的コンポジシ
ョ ^{L L} |
| 73 精密に集成された塊體の體
現 | 93 技術館の中央圖書室 |
| 74 獨創的考案の構成的結合體 | 94 工場・製作所型の普通建築
物 |
| 75 工場型の律動的に熔接され
た建造物 | 95 繪畫的建築考案 = 空想案 |
| 76 複雑にして屈曲せる集團建
造物 | 96 人爲的に集成された構造
體 ^{L H} |
| 77 表示的な建築的外形 | 97 人爲的に集成された構造
體 ^{L I} |
| 78 明白に考案された空間的コ
ンポジション | 98 複雑な構造的外形 |
| 79 複雑な統一の露出せる工場
設立物 | 99 パノラマ的性質の建築的外
形 |
| 80 「産業のお伽噺」より ^{L C} | 100 複雑な建築的=工業的コン
ポジション |
| 81 「産業のお伽噺」より ^{L D} | 101 複雑をきわめたコンストラ
クションの建築的内部 |
| 82 獨創的な構成圖的建築考案 | |
| 83 産業的建築の考案 | |
| 84 建造物の最も複雑にして構
圖的な統一 | |

緒 言

建築上の或る目論見を建築ファンタジアの形で現はすといふ要求は
建築術といふものが起つてからの、色々な時代にあらはれてゐる。
これらのファンタジアは、構成的にも、また技術的にも、普通一般の
表現に背いてゐるといふことで、あり來りの建築手法とはいくらか異
なつてゐた。建築師は、建築ファンタジアを作りあける場合に、或る
新奇性と構成的自由とを採りいれることが許されたのである。

建築家は、製圖に際して在來のいかなる約束にも囚はれることなし
に、新らしい、より完全な手段を示すことができたし、またこれらの
手段の助けによつて、より全的に、より空間的に、吾々の豊富な想念
や企圖やを表示することができたのである。

吾々は、探求と幾多の實驗といふ方法によつて、建築家の頭を悩ま
してゐる諸問題の解決に近づくための、あらゆる材料をあたへられる。
ファンタジアの諸群のうち^{フアンタジヤ}に發表された建築構成圖の一部分が、一見
したところ解りにくいといふ特性をもつてゐるために、或る若干の建
築家たちには受けいれられないであらうとは、極めてあり得べきこと
である。けれどもこれは、すでに作りあけられた建築ファンタジアを
色々な場合の經驗の中から、除外するといふ理由には斷じてなりえな
い。

「建築ファンタジア」によつて作りあけられたすべての労作は、幾つ
かの個々の段階に分けられる、即ち(イ)純粹に線的構成から、立體
的モノリス的構成に至るまで(ロ)最も單純な正面の^{フアンタジヤ}パースペクチヴ
から立體圖のアクソノメトリヤに至るまで(ハ)最も簡單化された
形式から最も複雑な——豊富な形式に至るまで(ニ)彩色は、技術的

表現としても、大體各々の場合において、なんらかの新しい課題、或はこの課題にたいする補足を追究してゐる(ホ)構圖的手法は、新しいコンビネーションを深めうる程度によつてさまざまになつてゐる(ヘ)構成圖の色調、背景の仕上げ、正面或は背面の表景は、探求の結果を達成するために利用された(ト)若干の建築ファンタジアにおいては、作りあけられた勞作を最も豊富なものたらしめる目的で、明らかに案出された構圖的考案と幻想的組立から合成されたコンビネーションがとり入れられてゐる。これらのすべてのものゝ綜合が、空間の組織の解決を、或る程度まで浮彫的な、はつきりとした形で表示することを得せしめたのである。

●

建築ファンタジア創造の第一の基礎は、さまざまな表現的構成的及び技術的手段によつて、建築家の頭の中に生れえたとおのあらゆる想念を表示しようといふ欲望である。若干のファンタジアが、なんら、いはゆるマテリアルな眞實性を有してゐないといふ事情は、探求と追究の過程において、それをたゞ上掲のやうな方法によつてのみ表示するといふ止みがたい要求がおこつたといふことを語つてゐる。こうしたコンボジションの價値は、それらのコンボジションの各々がもつ建築的組立の「内的」資質と獨自性によつて定まる。創りだされた形象の新奇性と、あらたに決定された作品の完全な分析にたいする努力の結果として——上述のやうなコンボジションの出現が許されうる。それは、建築術の新しい段階における、若干の傾向の完全性を示す目的からだけでも、成しとけるべきである。のみならず、これらの傾向はその中に、建造物の壯大性の傳達、物體の律動と物體の仕上げ、モノリ

的性質、力學性、形と色の調和、構造的銜接性、及びその他の建築的諸特性を含んでゐるのである。

●

建築ファンタジア創造の第二の基礎は、一切の既定のもの、手法及び方法にかゝりなく、吾々の想念を傳達しようといふ欲望、即ち提起された問題については力の限り語つてゐるが、それを義務的な直接的・功利的・效用性の要求に縛りつけられることのないやうな組立を創造したいといふ欲望である。次のやうな一般的な疑問が自然に起つた。それ自身は興味のあるものではあるが、何らかのかたくなるしい條件には結びつけられてゐないやうな、自分の思ひついた企圖を表現しようとすることは果して不可であらうか？ 建築家の頭の中に生起するところのすべてのものを表示し、また一般に、この建築家の認められた欲求を、表明しようとする試みではならないであらうか？ さういふ仕事は、たゞ表示的方法に限定されて、それから先きの直接的な應用や效用化を有たないであらうとしてもいゝ——それが紙の上に現はれること自身は、果して、單に作圖者自身のみでなく、かゝる作品を觀照するすべての者に、何らかの新しい感情的經驗をよびおこさないであらうか？ 建築家の表示的創造的活動が、獨自な方法で示されずに、たゞ頭でだけ仕事をするといふ風に限定されるといふやうなことが許されるべきであらうか？ 上述のやうな一切のモメントは、建築ファンタジアを何らかの形で示したいといふ建築家の欲望が、建築師の實踐において席を與へらるべきものだといふことを語つてゐる。これは建築家の仕事のあまりにも興味あり價値ある段階である——彼れは建築學に多少とも興味をもつ因縁のあるすべての人々の間で 滿腔

の同情を見いだすべきである。

●

建築ファンタジアの第三の基礎は、それを創造する建築家自身にとつても、またそれを利用するすべての者にとつても、ファンタジアが疑ひもなく有益だといふことを認めるところにある。ここに提供された材料が、その肯定的な方面をもたぬといふやうなことは、あり得ない。建築ファンタジアは新しいコンポジション的過程や表現の新しい手法を示し、形と色の感情を育成し、想像を訓練し、藝術的衝動を喚起し、新しい創造と想念に引き入れ、新しい企圖の解決を発見するのを助ける等々、多くの肯定的な方面をもつてゐる。

●

吾々は建築ファンタジアのうちで提示された形象的表現の諸手段の助けによつて、それを實用的實踐に直接利用し、またそうすることによつて實踐を完成することができる。のみならず、建築ファンタジアは方法論的手法の一つとして、初學者・建築家たちの學習的實踐において利用されねばならぬ。かくして、上述されたすべてのことは、建築ファンタジアの肯定的方面が、有益であり、多様であり、偉大であるといふことを確信せしめる。この事情からして、建築家の創造性のかゝる段階に対して最も注意ぶかい慎重な態度を強調することが許さるべきである。

建築ファンタジア

I

建築形態化の諸様體

建築術史の全發達過程においては、さまざまな形態化の方法、即ち圖示的表現や、繪畫的表現の諸方法が存在してゐた。現在吾々は舊い手段にあまり興味を感じてゐない。それらの舊い手段は十分にたしかなものではないからである。しかし尙且つ、或る若干の場合においては、吾々は過去の資料の中からも何ものかを汲み出すものである。在來の諸手法が變へられねばならぬといふことは、極めて妥當である。しかし何れにせよ、それらの手法を全く無用なものだと考へることはできない。

建築的形態化の様體は、極めて多様である。もしそれらの諸様體が或る場合に安定するとしても、この現象は、一時的なものと考へるべきである。もちろん、形態化は無限に變形され變貌さるべきであると斷言することは——正しくないであらう。もし吾々が、これから先きで、あらゆる建築的作品は同時代のものによつて解決すべきのみでなく、それをできるだけ、特徴的に表現すべきであると言つても、それは、吾々が無限に形態化を變貌させねばならぬといふやうなことを意味してゐるものではない。このやうな事情のほかにも、特徴的な自分に

特有な表現方法を有してゐる建築家たちの、個人的な形態化の方法を考慮におかねばならない。若干の特異な特徴からして、吾々はしばしば、その建築設計の作者を知る。建築の名手たちの、一見したところでは眼につかないやうな表現の特性や、繊細さは、是非とも吾々の建築的解決の形象的形態化に利害を有するものとして研究しなければならない。もしも才能をめぐまれた建築の名手たちの各自が自分の建築設計形態化の手法を、他の者たちに頼ちあたへることができたならば、そこに集成された材料は、新らしい若い人々にとっては最もよき教材として役立つ、また（イ）広く大衆の間に建築學の基礎を推進する手段として（ロ）建築的教養の一般水準を高める手段として（ハ）新らしい、より完全な表現方法を發達させることによつて（ニ）建築學に關する新らしい、完全な方法論的指導を作り上げることによつて、有益なものとなつたであらう。遺憾なことには、現在に至るまで價值ある建築家たちは、めいめい自分の達成の獨自性、を自分の中に藏ひこんでしまつて、自分の仕事の、或る種の「奥義」を創り上げてゐる。

わが國の建設のテムボは、未曾有の形をとつてゐる。そのため、建築設計の形態化の、簡潔化され、標準化され、迅速化された諸方法を發見しようといふ切實な要求があらはれた。そこでは、無數の探求や試みが行はれており、それらの探求や試みは、究極において一定の成果をあたへてゐる。しかしながら、プロレタリア建築が實踐生活にも藝術にも同じやうに近いといふ特性をもつにかゝらず、形態化を簡潔化する現代の諸方法が或る一定の限局性に悩んでゐるといふことを觀取することができる。のみならず、若干の建築對象の創造は、特別な様式の形態化を要求してゐる。建築家のところに生れて來たあらゆる企圖、思想、ファンタジア等々を、より迅速に表現できるやうな完全な形態化の仕方にたいする切實な要求が、これらの建築家に起つて來るほどに、創造的企圖が力強い流れとなつてあらはれて來ること

がないとは言へない。この場合には、その建築家にとつては、形態化の仕方はどうでもよい、彼にとつて重要なことは、彼の頭腦の中で生れ、解決され、發明される一切のものを、喪失せずに、定着づけることである。建築的形態化を、その簡潔化といふ意味で完成するといふ要求と共に、現代のテムボのもとで、創造的方法で表示するといふことを基礎にして、建築的形態化を完全に展開するといふ傾向がおこつて來てゐる。

平面的表現といふ建築的形態化の諸様式に觸れるとすれば、吾々はそれらの諸様式を次のやうに分けねばならぬのである。

- (1) 建築的表象の表示
- (2) 建築的スケッチ
- (3) 建築素描
- (4) 建築ファンタジア
- (5) 建築設計

もし第一の仕事を、吾々が鉛筆で描くことによつて成しとけうとするならば、第二の仕事は製圖を必要とするであらうし、第三の仕事は彩色を、第四の仕事は繪畫的手法を、第五の仕事は——銅版刷の製作を必要とするであらう、等々である。

1. 建築表象の表示 は、大多數の場合、最もエスキーズ的な性質の繪畫的ラフ・スケッチで注出される。それらのラフ・スケッチは、鉛筆でなされ、種々さまざまなコンポジションの、無數のウアリエーションで表はされる。これらのものに特有なのは、未完成的様相であり、そしてたゞ時としてのみ、それらを全く完成したものとする必要がもたれる。しかし、完成された形でさへ表示された建築表象は繪畫的構圖的課題の部類に屬するものである。この事情は、觀者の眼に訴へる力には少しも影響するものでない。

2. 建築のスケッチ は、通常實物から成されるものであるが、或ひは鉛筆（黒又は色のついた）でなされ、或ひは鉛筆のスケッチに彩色がつけられ、或ひは又、直接に色彩をつけて行はれる、等々である。これは全然それを行ふ者の志向と氣分に關係する事柄である。建築スケッチの價値は、それが、（イ）解決された形態を圖式的に表現することに慣れしめる、（ロ）解決の成功と不成功とにたいする觀察力を發達せしめる、（ハ）形象の構圖化に馴致する、（ニ）技術的熟練を鍛へる、（ホ）作りあけられた仕事に對して分析的に立向ふやうにせしめる、といふ點にある。實物から描寫する建築スケッチがあらゆる場合において、初學者にとつてのみでなく、熟達したすべての建築家にとつても勸めらるべきものだといふ一事は、疑ひもないことである。

また同じく、最も興味あるモメントを明らかにするために、決定された設計圖の建築スケッチを作製することも是非必要である。これらの仕事は普通、設計圖の解明と圖解に役立つ。このやうなスケッチを形態づけることは、そこに提示される仕事の全般的調和を害するやうなことがあつてはならない。

3. 建築の素描 は、建築家の實踐において、重要な位置を占める。なんらかの建築的課題を解決するとき、吾々はいつでも、それを豫備的な綜合や探求によつて現はす。平面圖、斷面圖、正面圖及びアクトノメトリアの決定に際してなされるエスキーズの仕事は、生れいで、培はれてゆくあらゆる表象が、それらの仕事の中に表現を見出すといふ價値をもつてゐる。多數のエスキーズ的ヴァリエーションは、或る者にあつては、繪畫的方式によつて、他の者にあつては、——正確な製圖的方法によつて形態化される。或る場合においては、鉛筆の方法で充分である。初學建築家の學習的實踐においては自分の表象を

ヨリよく發達させるため、また表現の手段を完成させるために、より全的に、設計の豫備的表現を製圖的に（エスキーズの形で）形態化するがよろしい。

4. 建築ファンタジアの形態化 は、建設される建造物の設計を表示するための第一段階として役立つのみでなく、建築家を最大限に武装させ豊かにさせ、その建築家を完成せしめる。あらゆる建築作品を、成功的な形において、また設計圖の内容と完全に一致させて形態づけることは、建築家の仕事の、最も興味のある、しかし最も責任のある段階である。建築ファンタジアは、その形態化において上述の事實に裏書をあたへなければならぬ。或る場合においては、吾々は、建築ファンタジアをパースペクチヴ的表現において形態づけ、他の場合においては——アクトノメトリアの方法で形態づけ、また第三の場合においては、それを正式に表現する。すべてこの三つの場合は、それぞれ、その表象のさまざまな形において示すことができるのだが、もつとも多數の實例において、吾々は、建築ファンタジアを彩色して形態づけており、それによつて、一列の獨自な作品を得てゐるのである。建築ファンタジア及び一般のあらゆる種類の建築作品を形態づけるにあつて、最もよき成果を達成するためには、色彩を、その周圍の諸物體に完全に內的・構圖的に結合させ、適用するだけでなく、必要な色調、明暗の手法を表はすべきである。もしも吾々がこれに加ふるに、空間的性質の建造物の最も有利な視點を選んで、表示された建築物の「特別な」視點を適用するならば、究極において、吾々の建築ファンタジアの完成された形態化が得られるであらう。立體的・モノリス的諸要素を、建造物の節骨や縦軸の部分と結合させることは、同じく形態化の性質と全一性に影響をもつてゐる。といふのは、このやうな組成部分が適合せず、統一を缺くときは、一般のコンポジション的課題を破壊するし、この課題の最も完成された形態

化でさへ、完全に肯定的な解決をあたへることが出来ないからである。吾々の創造した構成圖の中に加はつてゐるあらゆる建築要素の構成の、完全な調和性、構造的結合性、及び調和的接合性の必要を特に強調せねばならぬ理由はそこにある。これらのものは、その形態化された形において、建築ファンタジアの完璧な表現をあたへ得るからである。

方法と内容は、疑ひもなく決定的な役割を演じてゐる。それは、一方においては、建築ファンタジア表現が圖式化に陥り、他方においては、デテール化と装飾性が一面的な極端と見られるからである。建築は、人爲的な方法で、本來それに特有でないところの諸特質をそれに附加するやうなことの無い、全一的な集成物とならねばならない。あらゆる形象的圖式的表現は、吾々の前に描き出されてゐる立體的空間的表象の全部を、全力的に把握することはできない。建築的表象の現實的表現は、往々にしてその源泉——表象よりはずつと深く、より完全で、より豊富なことがある。だから、建築ファンタジアの形態化は、たゞ部分的に、表現の課題を補足するものである。吾々は、最初の表象とはひどく異つてゐるやうな建築的表現を與へられることができる。この最初の表象は、この場合においては、いはゞ刺戟者のやうなものである。かくして、建築ファンタジアの明白な形態化は、それにつゞく仕事の基礎として役立つのである。

II.

技術的過程

建築家の誰彼によつて應用される技術的過程は、或る程度までその人を特徴づけるものであつて、その仕事に特別な跡をのこしてゐる。しかし同一の作者が表現のさまざまな技術的手段を應用してゐるといふやうな場合も無くはない。九つの技術的過程、即ち(イ)線(ロ)毛線(ハ)ほかし(ニ)平塗り(ホ)鉛筆ほかし(ヘ)透明平面圖及び透明立體圖(ト)エッチング(チ)混成方法(リ)繪畫的過程——のうちで、若干のものは、その本質からいつて表示のほとんどあらゆる場合において、吾々に無味乾燥な^{グラフィック}圖示的形象をあたへてゐるが、しかし他の諸過程は、より繪畫的な形式において表示され得るのである。

いかなる手段がより完全であり、或ひはより望ましいものであるかといふ問題を豫じめ決定することは、どうしても出来ない。といふのは、作品の價値は、その中に存するところの諸特質によつて計量されるものだからである。のみならず、いかなる目的にその作品が豫定されてゐるかといふ事情も、役割を演じてゐる。或る場合においては、吾々はそれを純粹に實用に適するために表示しなければならないし、他の場合においては、そこで取扱はれてゐる建築上の問題を強調する形でデモンストレーションのために表示しなければならない、また第三の場合には、繪畫的・空間的課題として表示しなければならない、等々である。吾々は、成功的に解決された課題の技術的形態化が、建築家の企圖の本質を補ひ、それをはつきりと示したといふやうな無數の事實を知つてゐる。同時に吾々は、立派に且つ思ひきつて活潑に逢

行された建築的課題が、本質を曇らせ、虚偽な視覚的印象をあたへたといふやうな現象をも目撃してゐる。また同じく、建築家の概念を、圖示的方法で拙劣に不成功に解明してゐるやうな場合もあるし、とは云へまた、その創造物の寫實的空間的な形式が、結合の豊富さと特別なコンビネーションの現存とで、律動的且つ力學的な現象の魅力をも有してゐることもある。

眞に有益な一つの本質的な事情を、特に強調しておく必要がある。それは、あらゆる獨自な、技術的に解決された作品が、さうしたものを研究してゐる者、或ひはかゝるものを利用してゐる者にたいして與へる偉大な教育的作用である。

建築作品の役割は、たゞに建築企圖の表示だけに盡きないで、その後には繼續するものである。觀者はこの建築作品を知覺しつゝ、建築家が觸れた色々な課題を、その意識の中で發展させることができ、また自分自身としても、それを補充することができる。あらゆる建築物は、それ自身、その直接的な實用的な機能のほかに、若干の藝術的價値を表はしてゐるべきものである。そこで最大限に行動の自由を許される建築ファンタジアにおける探求といふことの正當さは、疑ひもないものとなる。技術的過程は、建築家の創造のさまざまな段階における、彼の企圖を表示するためには、強力な補助的手段であり、それ自身の獨自な相貌を得て、それによつて觀者の注意をひく。遂行方法の特異性は、單に圖示的表現の様體や方法を特徴づけてゐるだけでなく、建築家の相貌を示す、専門的な、純粹に技術的な手法をも特徴づけてゐる。建築家の生活と實踐の中に、新しい——現代的な——諸法則が根をおろすことによつて、吾々は、技術的表現のより簡潔化された、しかしながら、構成の虚飾^{アフェクテーション}が滅殺されてゐない、色々な過程を觀察する可能性をもつのである。これは、建築的企圖の技術的表現の最も簡単な手段を適用しようとする吾々の願望であつて、任意の過程や手段——殆んど純粹に條件的な手段までを過程として、表

現の最高潮に到達しようとすることを目的としてゐるものである。建築を捉へてゐるこの多様性のすべては、建築ファンタジアの中で豫備的な完成を得るものである。だからこそ、表現技術の上では、この仕事の段階において特に注意を鋭くすべきである。吾々が建築學をもつと研究し、より深くその實踐的・具體的な課題における建築學の本質の全段階を探求してゆくならば、吾々のファンタジアは、いつそう廣く、より廣大に、より全面的にうまれてくる。もし吾々の建築企圖を技術的に表現する諸手段を完成させ、かつ同時にそれを容易なものにすることが出来、大衆を建築に親しませ、また何らかの新らしい方法論的なやり方で、建築そのものゝ研究、構成・形態化・理解、およびイデオロギー的正當づけに最善の效果を得ることが出来るならば、この創造的空想を解明することは建設されつゝある社會主義の建築學をして光輝あらしめることになるであらう。この場合に言つてくべきことは本質的には極めて興味のあるものであるが、その複雑さと企圖の多様さのために、大衆性を望むことが出来ないといふやうな技術的諸過程である。このやうな手法は、往々にして、繪畫技術的な諸課題に近いもので、勿論、そのためにかういふ手法の適用範圍を局限してゐるものなのである。

建築ファンタジアの創造は、さまざまな形式を、ありとあらゆる相對關係とのコンビネーションのうちで生みだすことのできる、その人間の才能によるものである。そこで、大きな役割を演じてゐるものは、むしろ概念を明瞭に・確實に固定させる技術的手法である。微かなファンタジアしかもつてゐないやうな人間は、彼の頭の中に生れてくる形象にはつきりした、具體的な、獨自な性質を賦與するといふやうなことはできない。自分の概念をきわめて興味のある形式で自由に再現してはゐるが、しかし充分に確固たる説明なしに再現してゐるやうな多くの建築家がある。だから、何らかの方法でその概念は表示されてゐるが、彼らの建築ファンタジアが、いかなる目的のために表示

されてゐるかは、不明なのである。吾々の建築的概念を技術的に表現する上掲の九つの手法は、本来からすれば、この複雑性と特性によつて次の三つの範疇に分たるべきである。即ち（イ）^{グラフィック} 圖示的範疇、（ロ）^{グラフィック} 繪畫的範疇（ハ）^{グラフィック} 條件的範疇である。

第一の範疇のものは、空間と容積を「乾いた線」の結合によつて、充分な表現性をもつて傳へるといふ點で、吾々の興味を惹いてゐる。これは、望ましい^{プロセス}過程の一つであるが、しかし同時にまたきわめて困難な過程である。といふのは、最も完全な結果に到達するためには、純粹な製圖方法によつては、形式形成の若干の條件を、きわめて慎重に、分析的に、圖示的に、検討しなければならぬからである。

第二の種類のもは、他の型の慣習や技術的手法を必要としてゐるが、形式そのもの並びに空間を傳へる可能性を容易ならしめてゐるといふ點で注目されるべきものである。このことは、繪畫的な性質の技術的過程が有すると考へられる諸手法は、現物に近似してゐること、またその形式の或る完全性を得てゐること、同じくまた表現が或る「繪畫性」をもつこと等のため、あらゆる人間に理解され易く、観者眼をひきつけるといふ事情からきてゐる。構成の手法の多様性、彩色の手段の豊富さ、それから色調の適用——さうしたすべてのことがこの種類の技術的手法を、或る獨立したグループとして區別せしめてゐる。

第三の範疇は、それ自身、現代の諸過程のすべての技術的達成を集成したものである。これらの過程の助けによつて、吾々は一部分この書の多くの表現も構成したのである。「白地へ」ほかしてゆくこと「隅から」ほかすこと、背景に點を打つこと、透明平面圖、透明立體圖、仕上げの未成、考案された着色及びその他の一般的な複雑さの中にある技術的諸手法は、それを利用する場合には、何らかの性質を表示することが出来るといふ可能性を創りだしてゐる。今一ついつておくべきことは、ヴァリエーションの豊富化は、製圖家・建築家の各自にた

いして並々でない廣大な領域を創りだしてゐることである。種々さまざまな陰影をもつたすべての段階は分析的方法で傳へることは不可能である。たゞ技術的諸過程は建築家の仕事の中に發明された創造的考案をひき込む道程によつて、種々なる段階を経過するといふことが出来るだけである。

以上觀察されたすべての事柄は、次のやうな目的をもつてゐる、即ち建築術における技術的手法の役割は、吾々のすべての建築の概念、空想及び考案の單なる形態化にあるのではなくて、吾々の創造的活動性の不可分の一部分となつてゐるといふことを、建築家や、空間藝術の創造者に注意を集中せしめよう、といふ目的をもつてゐるものである。何らかの技術的手法を探り、建築ファンタジアの表現に際して「全一なる^{プロセス}過程」を創りあけることによつて、吾々は最も確實で最も近道をたどることが出来るのである。

建築概念を技術的に表現する過程そのものは、建築家によつて、さまざまな形をもつて行はれてゐる。或る場合に吾々が觀察するところでは、建築家は、無数の探求によつて、自分の課題をエスキーズ的な單色或は多色のスケッチで解決し、しかる後にすでに完成された形態づけられた構成圖を組み立てることによつて、自分の仕事を完成させる。つまり究極の結果は若干の多面的な表現の歸結として得られるといふやうなことがある。また時として、建築家は、同一の構成圖の慎重をきわめた仕上げ及び完成によつて、自分の解決を得てゐる。この場合においては無数の変更が行はれ、同じ表現點における仕事の道程にしたがつて變貌されつゝ新しい製圖によつてとりかへられては消滅してゆくのである。

何らかの思想の表現に直接とりかゝつた建築家は、手法そのものを、また仕事の道程にしたがつてその手法の實現化を、展開してゆく。だが他の建築家は、考へついた思想の決定的な解決に辿りつくまへに自分の課題を、その一般的相貌の部分や、彼の確信と感情によれば、

仕事のさまざまな段階において適用すべき、彩色・色調づけ、及び製圖の諸過程の部分において、基礎的に解決する。

技術的諸過程の中には、吾々の仕事の實現を助ける製圖材料を加へなければならぬ。水彩畫・水繪・墨繪・アエリン等々のいづれが適用されるであらうかといふ——かうしたすべてのことは、疑ひもなく、表現にたいしてそれに合致した相貌をあたへるため大きな役割をもつものである。製圖材料をその特殊な獨自性と結合することは、技術的製圖的諸過程と共に、建築家の専門的な課題と見られるところのものである。

III.

描出方法

描出方法は次のごときものに分けられる。(イ)幾何學的描出、(ロ)一般及び部分透視圖、(ハ)水平線よりの透視圖、(ニ)全部又は部分的なアクソメトリア、(ホ)條件的な人爲的な描出、(ヘ)俯瞰圖、である。

これらのものは、最も正確と思はれるやうに、建築表象を表現する可能性をあたへてゐる。もしも、或る場合において、幾何學的表現が建築家の思想と企圖を完全にはつきりと圖解してゐるとしても、他の場合においては、より見わけ易い表現形式が必要である。こゝで吾々は、さまざまな描出方法を、その方法に對する吾々の同感にしたがつて利用するわけである。

描出方法のすべては、例外なしに、純粹に條件的な、價値的にはさまざまな、手法である。このことは、吾々をして建築概念を表現するあらゆる場合に、再現されようとする物體に最も特有である手法や方法に赴かしめる。吾々はたゞ望むところのものを得んがためにはこの條件性を任意の限界にまで持つてゆく權利を有する。もちろん、或る描出方法が、すべての者にとつて、しかも常に理解されるものであるとは限らない。しかしそれは、それを見る人間に十分な用意と十分な發達^{コンプレックス}が缺けてゐるがためなのである。種々な描出方法に際しての技術的な諸手法は、きわめて種々さまざまなものであり、多くの技術と獨^{コンプレックス}自な解決をもつてゐて、ひつきよう、建築家の創造的意圖の複雑な總^{コンプレックス}合を反映するものである。たゞ望まれることは、あらゆる場合に

において、描出方法と技術的表現との結合が、問題とされてゐる課題に最もよき解決を與へるといふ一事である。

描出方法は、建築術の中ではかなり大きな地位を占めてゐる。またその特殊性の點では、その特別な法則によつても、またその設定によつても特殊なものである。建築設計の全過程は、建築家の創造的仕事の全段階とおなじく、たえず一見明瞭な、説明的な作圖に伴はれて進んでゆくものである。この結果、各々の建築家は、描出技術の領域では最大限に鍛練されなければならない。このほかに建築家は、自分の概念を描き出す手法や方法が、建築家の仕事の特質を反映するように自分の注意を集中すべきである。

描出方法は、その本質よりして、建築の基礎を探求する時期においては、建築家のその後の仕事の「レギュレーター」である。それ故に、この研究の基礎に横たわつてゐる建築企圖の構成と表示を分析する一般原則を示さなければならない。このことは、豫備的な性質をもつた一列の諸段階を解明するときのみ可能である。これらの諸段階の解明は、分析、正確化、及びシステムを作り上げるといふ課題であるが、しかしそれにしても、適應する結果をあたへることのできる範例的な出来るだけのメソッドロギイ的な方法を示すべきである。

第一に吾々は、表現の規模の全部を占めてゐるところの、紙の上における平面的解決による表現の初等的な方法を、學習者の間に植ゑつけようと努めてゐる。これは、それを行ふ者が、構成點と同様に周囲の物體と完全に適應するやうに、そのものゝ大きさを紙の上に配置することによつて、描出を「コンポジショナル」に決定することが出来るやうに教へることを意味してゐる。平面的決定においては、コンポジションのモメントの外に、これに加はる「構成分子」の構造的關聯の概念が研究される。初歩的な實例において構造的な關聯を明らかにすることは、建築コンポジションを形成してゐる有ゆる要素の結合や銕接の方法によつて、自分の仕事を完成することを教へる。これと共

に、この構成に、「活動的」に加はつてゐる構成要素の「律動的構成」の問題が解決される。各要素間の相互關係、それらの相一致せる關聯、あらゆる構成要素を選別したり、間隔をあけて置いたりすることは、その究極において律動的解決をあたへるものである。それ自體としての律動なるものは、吾々の概念の表示の最も胎生的な發生の中に芽ばへてゐるものである。

更に一ついふべきことは、平面的性質の描出を研究し構成するといふ課題の中には、それと離すことの出来ない一部分として、叙述の手段及び方法がはいつてゐることである。そのわけは、この叙述の手段及び方法は、吾々の建築の圖示的探求には、完成された全的な表現をあたへるものだからである。基礎的方法論的研究に關する仕事の、次の段階としてつゞくものは、構造的性質の諸課題である。これらの諸課題の上では、吾々は、尙ほ空間性の感情を育成し發展させる可能性を有してゐる。すべて上述のことは、平面の構造的空間的結合の助けによつて到達されるところのものである。

III.

製圖的過程

建築設計の場合の製圖的過程は、全部の仕事の中心である。これらの過程は、次の如く分たれる、即ち(イ) 正常的過程、(ロ) 高度と水平面に沿つて視點を動かすこと、(ハ) 平面圖・立體圖による構成、(ニ) 短曲圖、(ホ) 歪曲圖、(ヘ) 前面圖、(ト) 内面圖及び外面圖、である。吾々が、建築家の創作を表示する外的な方法に大きな注意を向けるのは、表現の完成によつて最大限のエクスペレシオンにおいてその創作を示し、最大の力を發揮せしめるためである。建築家は、その創造的探求の最初の段階においては、時としておづおづと慎重に行動するが、その後に至つて、その仕事の最も大切な場所へくると戦線を全的に展開してこれを克服することに移つてゆく。吾々が廣義な意味で建築作品の構成圖の問題といふのは、平面圖的構成の部分や断面及び前面部分やの全體を含んでゐる。そして前者の部分でもまた後者の部分でも、吾々の發明的才能を最も廣く飛翔させることができる。平面圖・断面圖・前面圖を相互間に全一のものとして結合させ、たがひに分裂することなく、またそれを象象的表示と完全に結びつけねばならぬ。吾々は、一つの部分のために他の部分を犠牲にしてはならぬ。かくして吾々は、若干の建築家が往々にして實踐の中に示してゐるやうな現象から免かれるのである。建築家は、よき前面圖を得んがために不必要な部分をひき入れたり、設計圖の、内容的には不必要な個々の場所を避けたりして、平面圖の要求を無視する。また目的に媚びるために、建築家は形式のことや、空間をより完全に仕上げることを忘

れるといふやうなことがあつてはならぬ。構造的特性にひどく熱中する結果、建築術の根本的な諸命題からはなれ、なんらの價值や意義をもたないばかりか、空間形態化の諸原則を歪めてゐるやうな作品をつくりといふやうな結果に屢々おちいる。このやうな作品は、觀衆や、また建築家の創造物から或る教訓を得なければならない人々には、類廢的に作用するものである。つねに内容と形式との辯證法的統一を忘れてはならない。

以下あげられる七つの製圖過程は、その各過程の意義と概念をよりよく明らかにするために理解しておくべきものである。

(イ) 「正常的」コンポジションといふのは、普通行はれてゐる^{グラフィック}圖示的表現で表はされてゐる建築的組立のことである。この場合には建築コンポジションは、幾何學的表現の^{ジオメトリ}形り、或ひは透視畫的組立の^{パースペクティブ}形か、あたへられた位置のまゝ、何らの動きもなしに傳へられる。「正常的」コンポジションにおいては、吾々は、素朴なごまかしのない方法で、建築課題の様體のみでなく、さういふ課題を形成してゐる一切の要素を傳へようと努めるのである。吾々は、移動させたり、陰影をつけたり、歪めたり、考案を加へたりするやうなことはしないで、一定の嚴格な決定をとつて、すべてをちやんと、きまつた位置に「立てる」のである。簡單化された方法をもつてゐるこの建築コンポジションは、建築作品を創りあけてゐる諸要素を調和的に結びつけるので、吾々を惹きつける力をもつてゐる。

(ロ) 正常的な構圖方法と對照しておかれるものは、「^{スリット・ポイント}視點移動」である。この手法は、その適用が、きわめて豊富であり、廣汎であるにも拘はらず、まだ十分に解決されてゐない。視點移動は、本質的には、建築設計においては純力學的な現象であつて、現代の吾々の要求のうちで何が緊要だかといふことを決定してゐるものである。視點移動が建築構圖においてそもそも何を表象してゐるか、またどういふものがあるかといふことは、完全に知つておかねばならぬ。

かりに舊い構圖の手法が、何らかの建築的要素の論理的な前進運籌において、またその反覆的な律動的強調において、厳格な合則性をひき入れるように努めたり、或ひは、何らかの効果を爲すために均整性を守る必要があつたり、或ひはたま、建築要素の或る一つのコンビネーションが結合原則にもとづいて他のコンビネーションと結びついたりしてゐるとしても——現在、現代の建築においてこのやうな手法を無限にくり返すのは、不當然なことであり、無意味なことである。コンポジションのない手法の代りに、吾々がとりいれる新しい手法は、反覆のリズムが、各要素の不均整なコンビネーションによるこれらの要素の結合のリズムに代つてゐるといふ點にある。吾々は、建築課題の機能的合理的解決を助けることの出来るやうな構圖の各部を、あちらやこちらの方面へ、また上へ下へと動かすのである。この課題の要求に一致して行動すれば、吾々は、設計される建造物そのものもつてゐる要求を満足させるのである。吾々は、たとへば、課題の眞の要求を考慮せずに、均整の法則に一致せんがために、かうしたものを一點へ「おひこむ」やうなことがあつてはいけない。反對に、吾々は作られる構圖の一般的輪廓のうちで隠されてあつてはならない部分を、わざと進出させたり、陰影づけたりする。

一つの部分を他の部分に對應させて進出させたり、第二義的な要素を陰影づけたりすることは、結合の際には、平面圖においても、また立體的空間的構圖においても、いつそう豊かな解決をあたへる。

このやうに視點移動は、圖の凝結した形式の中へ運動の幻影をひきいれ、その形式に生命をあたへ、その形式を力學の状態に導くことによつて、各要素の靜かなる一致を破壊する。もちろん、吾々は、力學の要素をひきいれようといふ望みが、奇體な形式であらばれないやうに、厳格に注意しなければならぬ。或る建築家は、興味のある視點移動を追求するために、コンポジションのノーマルな構成常識を輕視してゐる。コンポジションの方法の質は、突飛な思ひつきできまるも

のではなく、その考案を、それに特有な適應する場所に合理的に置くことによつてきまるのである。

(ハ)「平面圖・立體圖による構成」は、吾々が平面圖をその根本的な立體の解決において、自分の課題を示すことができるばかりでなく、さらに最も眼だつた形で建造物の體積をデモンストレーションする場合に、建築構圖の圖示的表現の場合を表はしてゐる。この手法はアクトノメトリアの方法でもつとも良く成しとけられる。この著書中の或る圖解は、上述のことを充分に裏書してゐる。

このやうなコンポジションの手法の價値は、それが大なる表示性をもつてゐるといふ點にある。この表示性は、吾々が、平面圖と立體圖を一つの全一なものに構圖的に結合させることが出来るか、或はそれには不十分かを明らかにさせるものである。この立體圖と平面圖の一致が失敗した場合には、表示の際にその失敗が非常にはつきりと暴露されるので目につく。だが失敗のあらゆる暴露は、コンポジション製作の過程において、それを清算させる。勿論、平面的コンストラクションは、きわめて薄弱にしか平面圖の本質を照映してゐないし、吾々に設計圖の眞の内容を知らしめてはゐない。これが平面圖・立體圖による構成としてのかくまで興味ある構圖的手法の若干の弱點と見られるものである。

(ニ)「短曲圖」は、建築コンポジションの構成の例外的な場合において適用される。それはたゞ次のやうな場合にのみ興味のあるものとなる、即ち(一)視點の適當に撰擇された場合、(二)短曲圖の適用によつて適當な對象のある場合、(三)この短曲圖の適用を行ふことに熟練してゐる場合である。時としては極めて獨自な構成が得られるが、しかし慣れない眼にとつては、充分理解し易いとはいへない。なぜなら觀る者にとつては、そこにあたへられた形で建造物を想起することは困難だからである。それ故に、このやうな構成はそれを理解する人々にのみ役に立つのである。こゝにいふ事情は、かゝるコンポジションの構成の弱

點だと考へなければならぬ。彩色の助けによつて、きわめて獨自な効果的なコンポジションを得ることが出来る。さうしたコンポジションは、感覺の新らしさによつて屢々吾々を魅惑するほどのものである。

(ホ) 殊に興味のあるのは、構圖の「歪曲」である、かうしたことを行なつてゐるのは、普通、すぐれた天分と大きな發明的才能をもつてゐる建築家たちである。何らかの歪曲の方法で建築コンポジションの「尖鋭性」を賦與するといふことは、これにたいする才能と手腕をもつてゐる者のみがない得るところである。あらゆる場合において、建築作品に適用せられた「歪曲」がその印象を強め、感覺と氣分の新鮮さをもたらすことは疑ひもないことである。普通の觀者にとつては、多くの「歪曲」は、短曲圖と同様に理解されないものであるが、このやうなコンポジションがもたらす獨自な結果によつて、この方法は奨励し應用すべきである。遺憾なことには、吾々は、建築コンポジションの歪曲の成功的な應用を見るのは稀れである。多くの者はこの手法を、それが適應してゐるかどうかを考慮におかずに、模倣的に利用してゐるにすぎないのである。

建築コンポジションの歪曲がいかなる點に表現されるかを正確に形式づけることは困難である。そのわけは、各々の建築家は、この課題の解決には自己流に歩みよつてゐるからである。たゞ普通この歪曲は、獨自なアクトノメトリア的構成において現はれてゐて、殆んどゲオメトリアル領域には、はいつて來てゐないと云ふことができる。古い名匠たちの透視畫的構成においては、これらの建築家たちの作品を利用してゐる者にも氣がつかないでゐるやうな、あらゆる「歪曲」が極めて屢々適用されてゐた。従つて、建築の「歪曲」が新しいものであるといふことは、いかにしても出来ない。現在においては、最もポプユラーになつてゐるのは、アクトノメトリア的構成であるが、それはこの構成がその適用の點で無際限な可能性を許してゐるからである。透視圖のコンポジションにおいても、吾々は、興味のある結果をあたへ、あり

とあらゆる考案をひきいれてゐる。描出の或る「描き切らなさ」或ひは「未完成さ」は、條件的歪曲と殆んど同程度に印象を強めることに役立つ、作品を有利にしてゐる。歪曲と結合した「描き切らなさ」はコンポジションに或る獨自性を賦與し、このコンポジションを普通あり來りの構成と異つたものにするものである。

(ヘ) 「前面圖」の表示は、建築コンポジションの構成の謙虛な手法に屬する。吾々は、何らかの手段で建造物の一部分をひき離したり、或はる建造物を他のすべての構成部分から分離しようと努める。この分離は、或ひは調子を強めるといふ方法で、或ひは色彩の強調によつて、或ひは、圖示的手法にまつて、等々によつてなされ得る。この場合吾々は、他の種類の若干の手法を純粹なコンポジション的課題に適用する。しかしその結果あたへられるのは、建築表現の構成點である。前面圖を表示し、それを優勢的なものとなし、それに注意を向けさせ、それからうける印象を強化することを助けるといふことは、描出の他の部分を見捨てることを意味するものではない。前面圖の強化を助けてゐる背景との緊密な結合に注意を集中しないのは誤りである。寧ろ反對に、描出の陰影づけられた後面圖のコンポジションを注意ぶかく解決することによつて、吾々は、前面圖を浮き上らせることができるのである。前面圖及び後面圖の相互の調和的な解決は一般に建築コンポジションを最もよき形で解決する。

(ト) 内面及び外面のコンポジションは、建築課題の圖示的表現の遠い昔の時代から、建物の内部及び外部の場所を圖示するといふ方面で顯著な位置を占めてゐた。大きい、複雑な、どの建造物においてもその表現を必要としてゐる、いはゆる「強調的な」莊重な大切な方面があるものであつて、そのために建築家には、これらの方面を、透視圖或はアクトノメトリア的構成の方面で表示したいといふ欲求があらはれるほどである。このやうな構成は、きわめて効果的に作用するものであつて、建築家は、それを最も有利な形で定置する必要があるのでは

ある。建築家は、空間的表象にたいする非常に発達した才能を有し、そのあらゆる内部及び外部を明らかに思ひうかべ、彼に最も有利と思はれ、最もよく建造物の選ばれた場所を反映してゐると思はれる観点から出發して、適應する形式の中に自分の概念を體現するのである。もちろん、上述のコンポジション過程、その過程の解明と特質づけとはこの書の立場を決定する視野のうちで提起されてゐる。より完全な解決、或ひは新しい補足が現はれるかも知れない。しかし根本におかすべきことは、建築設計におけるコンポジション過程を最大に普遍化しようといふ思想である。

V.

表現の手法と様態

表現の諸手法及び諸様態、即ち(イ)等しく一様に表現する手法、(ロ)強めたり陰影をつけたりする手法、(ハ) blanc et noir、(ニ)背景的手法、(ホ)描き切らない手法、(ヘ)普遍化の手法、(ト)細分の手法——は、吾々が、あらゆる建築コンポジションを、それに特有な姿で表現することが出来る方法として、役立つてゐる。適当な表現の態度を選ぶことは、時として困難である。建築設計圖の意義と内容が曖昧にされ歪められる程にまで、この設計圖の表現が不成功に、不適當に解決されたやうな場合もあるし、又それと反對の現象もある。つまり美しい壯大な表現が設計圖の本質を歪め、その効果性によつて観る者を混亂に引きこむやうな現象もある。上述の七つの表現手法は、その原則の點からすれば、説明や解明を必要としない程に初歩的なものである。だが、すべてこれらの手法は、當該建造物の表示的表出にのみ關するもので、決して萬能的な手法ではないと言ひうる。實際的な効用的な場合では、これらの手法の適用はとるに足らない。それらの手法は主として、大きな社會的意義をもつた建造物を設計する場合に利用される。上掲の諸手法の多くは、この書の構成圖をつくる際にも部分的に利用されたが、しかしその全體にわたつてゐるものではない。

表現の諸手法は、その各自の様態において、吾々が名匠たる建築家に觀るやうな眞實な體現のことごとくを盡してゐるものではない。建築家は、つねに自分の概念を、自分に特有な叙述の中で傳へようと努

める。他の名匠たちの「やり方」や表現手法を模倣する建築家は、或は名匠の影響下にあるか、或ひは自分自身的手段が不十分なものであるがために、さうした方法で仕事を行なつてゆくのである。吾々に興味をおこさせ得るのは、独自の解決によつて何らかの程度で自己の相貌を表現し、吾々に或る新しい、新鮮な、多様な、何物かを與へるところの建築家だけである。

吾々が表現の様態の中からどれを手本として取りあげたとしても、それは各々の名匠にあつては、その表示の段階において新しい相貌を得てゐるものである。そして吾々は、建築家が表現の様態の問題にたいして相當な時間を割くばかりでなく、正しく且つ論理的に解決せられた自分の思想にも拘らず「何かしら」に到達するのを、しばしば目撃する。この最後の事情は、表現の様態は建築家にあつて最後の場所を占めてゐるものではないといふこと、また、彼がこの問題に大きな興味を傾ちあたへたのは、たゞ自分の思想、自分の企圖を最善の解決の中で達成しようと望んでゐるがためであることを物語つてゐる。

建築ファンタジアにおいては、表現様態の手法はきわめてさまざまであるが、その個々別々の場合において、一つの一般的な、自分の特徴的なものをもつてゐる。もつとも完全な形の手法で、何らかの建築思想を解決するには、きわめて多くの手段がある。この関係においてそれらの手段を最もよき独自の解決において達成する可能性はいくらでもある。上にあけた建築企圖のすべての表現手法において、尖鋭さを得るのは、それらの手法のどれが仕事のうちで利用されるかといふことのためではなく、それぞれ建築家に具はつてゐる作圖方法、表現の特殊性のためである。もちろんこゝでは、建築コンポジションの構成「分子」のコンポジション的分割が或る役割を演じてゐる。建築家は、自分の企圖が將來に實物に體現されることを注意において、自分の概念を表現するにはこの實物と適應するようにその概念を表現

しなければならぬ。でないと、吾々は現實と設計との間に或る間隙が起るやうな場合を持つことになるであらう。

すべて上掲の表現の諸手法は、「條件的」なものである。吾々は、それらの手法の助けによつて建築企圖が求める解決を得ようと努めてゐるのだといふことを考慮において、それらの諸手法を單に變更したり補充したりするばかりか、或るいつそ新しいものを作りあける全可能性が持たれる。この新しいものは、特別な表現手法を包括するものであり、在來の圖法とは異つて、建築設計における叙述方法の明瞭さによつても、また効果性によつても、一層完全な型をあたへるべきものである。

建築ファンタジア、企圖及び概念の表現に際しては、圖示法やまたは色調的彩色のあからさまな考案的な手法が適用されるといふ事情はより良き、独自のコンポジション的構成を見出してそれを發揮するがためには許さるべきことである。

VI.

建築企圖表示の手段

前衛的建築家たちの建築的企圖を表現するあらゆる手段は、その根本目的——階級意識のあるプロレタリアートの幸福に役立ち、その幸福の發達を助成し、新しい社會の人間の利益に合致し、その人間の生存を容易にする——を達成する場合に良いものである。この使命によつて、建築は、その思想を表現しようと努めてゐる階級の最も力づよい武器として役立つのである。建造物の建設についての法規制^{レゾルマンター}定は、それに對應する社會の状態と要求を示してゐる。しかしこの法規制定はそれ自身で、建築の問題の全部を盡してゐるものではない。

現代の、階級的に鍛へられた建築家、空間的形式の創造者の義務として、きわめて重大な、内容的には深刻な任務が課せられてゐる。この任務は、建築家が、その創造物のうちに與へられた、新時代の獨自な特徴と要求を反映するといふ點にある。吾々は、社會主義建設の時代において、創造的衝動が極度に昂揚してゐるといふ徴候をもつてゐる。この昂揚の正しい、眞の表現は、自分の藝術に進歩的な技術を利用することのできる、現代の建築家の任務である。

吾々の建築的企圖は、さまざまな方法で生活の中に體現される。吾々は、或る場合に個人的な手續、即ち練習（個人的利用のための）の範圍でそれを表現するといふ形で、圖示的表示の状態にまで持つて行くが、他の場合には、その企圖を現實の建造物に體現するのである。この二つの極端な場合の外に、吾々は建築企圖の發達及び表示の他の諸段階をも知つてゐる。たとへば、分析、検討、究明、探求、その他

の方法で、吾々は最初は、自分たちの企圖にあたへられた明白な課題を發見し、それから、眞面目に解決された課題として、可視的な圖示的形態化の中でこの課題を解くのである。吾々の建築企圖を表示するのに、この他の色々な方法もある。しかし今は主として、二つの状態を明確にすることに限定しておく。この二つの状態とは即ち、（イ）建築企圖を可視的な圖示的形式で表示すること、（ロ）建築企圖を、現實的な、立體的空間的形象で表示すること、がそれである。

（イ）建築企圖のグラフ的表示 は、最初は、探求の段階を通り、この探求が、究極において、最後のものとして吾々に受けいられる解決へと導くのである。企圖の探求及び解決の時期においては、吾々は、屢々、次のやうな表現手段に力をかりる——即ち、すべての企圖が完全に明らかにされる瞬間までは、スケッチ、ラフ・スケッチ、素描、構成の方法による表現手段、に助けを求めらる。かくして吾々は、漸次に圖示的方法によつて、企圖の形象的可視的體現にまで到達するのである。こゝでは、分析的性質をもつた一列の方法が吾々を援ける。かうした方法は、むろん或る場合においては、仕事の成功を助成するものである。

（ロ）形象的・表示的段階 建築企圖を表示するこの形象的・表示的段階は、建築家の仕事では二つの特質的なモメントのうちで發展する。その一つの場合においては、建築家は、模型（マケット）の形で企圖を明らかにすることを目的とするし、他の場合においては、彼は圖面に代ふるにこの圖面に従つて直接に建立した建造物をもつてする。第一の場合には、建築家は、あらゆる修正・補正及び變更を許されるが、第二の場合には、何らかの改造を許すことさへ稀である。といふのは、それは莫大な、不當な出費を招くからである。自分の企圖を最初は形象的・圖示的方法によつて、その後立體的・空間的模型によつて、そして最後に現實的な建造物によつて體現するのが、極めて

有利であり合理的である理由はそこにある。建築家の各自は、自分の仕事の個々の場合に、自分の企圖を、能ふかぎりの手段によつて表示しようと努める。自分の企圖を、完成された生活中に體現されたものとして見たいといふ欲求は、現實的體現の中で解決される。建築家は自分の氣に在るやうな體現の方法を選びとる。しかし吾々の見るところでは、絶對的多数の場合に、企圖の表示の究極的な手段は、建造物の實現といふ形で表はされるのである。

建築企圖の表示手段の中には、建築の研究の時期や、または建築作品の設計及び構成の領域における科學的探究の形でなされる實驗的な諸方法がある。これらの方法は、それを正確な整然たる體系につくりあけることは不可能な程に多種多様であり、獨自な風にもつれ合つてゐる。たゞこれらの場合においても、吾々に最も興味をもたせてゐる結果を達成せんがために、獨自な後退を應用して、自分を拘束するやうなことはしないと言ふことができる。

兎も角も吾々の建築企圖・ファンタジアの表示手段には特別な地位が顧ちあたへらるべきである。ファンタジアの表示は、一般に、その形象・指示的方面が、最大限の「エクスペレシオン」と「獨自性」をもつて表現されるやうにしなければならぬ。表示のエクスペレシオンは、吾々の建築企圖やファンタジアが特別な圖示法で、吾々に傳へられるといふ、高い調子を特徴とする。建築表現の獨自な表示は、全創造的仕事の範圍で建築家にかならず必要なものとして提起されねばならぬ。といふのは、たゞこの方法によつてのみ「自己の相貌」を示すことが可能だからである。のみならず、吾々の建築表象の獨自な表示は、その表示の手段及び手法を完成することを非常に助けてゐる。建築構成の表現のそれこれの様態を探求し適用する時に、吾々には非常に屢々新しい見方があらはれ、特殊なコンポジションが作りあけられ、それがまた可視的な圖示的表示を要求するのである。

VII.

建築ファンタジアの根本原則

建築ファンタジアの構成及び表現に關するすべての部門は、その構築的結合の部分、ならびに構圖的結合の部分においてそれに特有な色々な徴候に従つて區分されてゐる。さういふ徴候の一つ一つの特徴的な獨自性は、建築ファンタジアの特殊性をはつきりさせ、この特性にしたがつて分類することを可能ならしめてゐる。建築ファンタジアの作圖的構成の根本的な諸原則を説明しながら、それらを觀察してみよう。

イ. 透視圖的及びアクソノメトリヤ的表現において、建造物の諸要素の一の完成された統一中に、建築を結合させ、集成させること。

このコンポジションの様態は、建築の構成要素が、その結合された接合において一つの完成され結合されたコンストラクションをあたへてゐるといふ特徴のある、或る一般的物體に建造物の全體的統一を純粹に體現する（構成圖＝第四、第三十三）といふ内容をもつてゐる。このやうな建造物の特質は、その確固たる靜力性と若干のモノリス性である。このやうな構成を見るときには、觀者はこの物體を、その空間において、ならびにその重量性において受け入れる。大きな面の加工は、ごく必要缺くべからざる部分のみに限定される。「構成」要素の律動的接合の構造的諸徴候は、その明らかな表現をもつ。

上掲の型のほかに、同じくここに問題としてゐる作品の部類に入れるべきものに、個々の塊體が諸方面に分在してゐるやうな——或ひは上方へ分たれてゐたり(構成圖=第一、第三十二)、或ひは又、個々の塊體がグループをなして分たれてゐたり(構成圖=第三十、第四十二)するやうな建造物がある。このやうな性質の建造物は、或る部分の靜力性と他の部分の力學性を強調してゐるものである。

殊に第二のグループから區別さるべきは、極端に高くなつてゐる部分と、水平的状態の大きな諸塊體とが、明瞭に強調されて區分されてゐる建造物(構成圖=第二十四、第二十五)である。

建物の塊體が空間に架されてゐる物體で結ばれてゐるときには、或ひは鐵骨支柱の必要(構成圖=第七十)、或ひは鐵コンクリート造り拍持臺の必要(構成圖=第三)があらはれて來る。

□. 建築物體の獨自な複雑な結合による
表示的デモンストレーションをもつ
た建築的建造物を構成する諸「構成
要素」の表現的集中。

生産の必要、或ひは仕事の特別な諸條件は、このやうな型の建物を必要ならしめてゐる。「構成」要素の獨自な結合は、直線コンストラクションと曲線のコンストラクションとの構造的銜接の中に曲線體があらはれてゐる結果として、得られてゐるものである。時には鐵骨支柱の上になされるこの種の建築(構成圖=第五、第二十八)は、最も強力に空間性を表はし、乃至はそれを決定さへしてゐる。しかしこの外に、吾々は最大限の力學的なエクスプレションのあるのを觀察する。その形式の點では複雑な、屈曲した球體の建築(構成圖=第七十六)は、他の諸部分の補充的コンストラクションを備へ、同じく建築の普通あり來りな直線的物體とは、はつきりと區別される特別な型の

建造物をあらはしてゐる。このやうな性質の建造物を實物として現出することは、建築家の仕事の、純建設的な諸段階においても、また建築作圖的諸モメントにおいても、特別な「解決」をよびおこすものである。

ハ. 機能的銜接性の明らかな諸徴候をも
つた建造物の構造的結合的立體性
における平面を指示的に表示すること

このやうな解決における建築ファンタジアは、建築家によつて解決されるそれらのコンプレクスの建築物のアクソノメトリア的表現法によつて、建築作圖の、最も完全な現代的手法の一つと見られる。或る一つの場合には、たゞ一つの直線形式の統一(構成圖=第四十七、第四十八)をもつが、他の場合においては、(構成圖=第二十六、第四十三、第四十九)——屈曲體や球體が直線的物體と結合されてゐる。このやうな性質の建物において觀點を撰擇するといふことは、展望的パノラマの場合と同様に重要である。一方からは、建造物の設計を有利な光の中で示し、觀者にこの設計の合目的性と堅確性を納得させなければならぬし、他方からは、建築の聯結された物體の最もよきモメントと、その「構成」要素がもつ要求と完全に一致するように考慮して、立體の結合をデモンストレーションしなければならぬ。建物の最も押出され突き出た部分は、それが必要な部分をかきすことなく、従つてまたそれが自らを害することのないやうに表現されなければならぬ。圖示的手法は、さまざまに變形しうる。時としては、吾々は「描き切らない」圖示的技術、或ひはほかの技術を利用し、(構成圖=第四十五)時としては、より明瞭な前面圖と圖示的な(軽い)背面圖を利用する(構成圖=第四十八)°或る場合においては、吾々の建築コンポジションを全部黒色の(構成圖=第四十三)、或ひは、部分的に黒色の(或ひ

は他の色の)背景(構成圖=第二十六,第四十九)のうちに表はすことが望ましい。

ニ. 空間性の指示的な表示をもつた、鐵骨的・縱軸的性質の設立物——建造物の明瞭に表現せられた構造。

あらゆる露出的設立物及び橋梁的建造物は、吾々に、興味ある成功的な諸成果を、そのくつきりとした明瞭さをもつて示す可能性をあたへてゐる。さういふ種類の若干の建造物の創造は、複雑化された形式の完成された型をあらはしてゐる(構成圖=第八十)「構成」要素の調和的聯結的結合に加はつてゐる各部の確固性と銜接性は、吾々に強く作用し、そのすべての完成された全一的な統一によつて、その解決の中に現代技術の達成を體現してゐる。

建造物の實際における、あらゆる從副的な適用をもつてゐる渦形持送的システムは、表示的な解決のうちに示されてゐる(構成圖=第七十送四)この課題の構造的遂行の正當性は、各々の建築家・技師がすでにそれを分析的に検討する前に解答を見出してゐる。このやうな、又は他の獨自な構造の發明は、多くの建築家たちの活動を必要ならしめてゐる。第七十九の構成圖において吾々は、拍持臺たる控壁と強力な渦形持送の支配的なあらはれを見ることができる。

このやうな對象をもつた建造物は、殆んどすべての場合に、露出的^{ダイブ}型の構造の特別な結合によつて「構成」要素の力と力學性を示してゐる。吾々が、このやうな構造を、立體的空間的表現においてだけでなく、彩色して表現することが出来る時には、それらが觀者の眼に作用する力は、最大限なものとなるであらう。色彩は、或る場合には色どられた物體に重味を賦與するし、他の場合には——輕快味を賦與し、空間的形式をその最もよき表象において解決せしめる。

ホ. 關係する諸形式の極度に簡潔化された、明白・確固たる態様の、モノリス的性質の強力に銜按せられた設立物

隠蔽された設立物・建造物は、殆んどあらゆる場合において、開放された部分のない、恰かも全一體のやうな塊體によつて眼を打つものである。細分された「構成」要素もなく、大きさにおいて壯大な、相互にがつちりと結合した、これらの建造物は、時としては觀る者の心理に、壓迫的な印象をひき起す。このやうな型の建築においては、生活はあだかも、その建物自身の内部に、閉ぢこめられて集中されてゐる如く、周圍に對して、完全な隠蔽性と孤立性をあらはしてゐる。こゝで吾々は、形式と、形式間のコンビネーションが、人間にとつていかなる意義をもつてゐるかといふことを、はつきりと確信するのである。構成圖第七において、直線型の補充的「構成分子」に附隨する、形式の點ではリズムカルな圓筒形立體の結合を見るのである。形式の反覆性、乃至は尺度の反覆性が、建造物の諸要素の嚴格なリズムカルな統一をあたへてゐる。だが、さまざまな性質の立體を結合させる時には、(構成圖=第三十五)全く異なつた状景が得られる。また複雑な物體——^{パツィンペツ}平行面體や、格子形の設立物の、豫じめ考案せられた構造的結合が、その相互間の完全な調和の中に統一されてゐるやうな時には、吾々はより全一的な嚴格な解決(構成圖=第七十三)を持つのである。

ヘ. 裝飾的加工と、あらゆる關係要素の細分とをもつた、さまざまな性質の「構成分子」の複雑な結合。

明白に考案された性質の建築ファンタジアのこの部類のすべての構成図は、「可能なる」建造物を圖解してゐる。構成圖=第十一においては、建築の強烈にして明瞭な彩色のもとに空中に架せられた通路の場合が示されてゐる。この建築ファンタジアにおける製圖の方法は、條件的・圖示的に適用されてゐる。明暗色彩における可能な解決の標本として、或る構成圖は、あたゝかい調子において（構成圖=第十）或るものは——冷たい色彩において（構成圖=第十三、及び第十五）解決されており、第十二の構成圖はこの暖かい色彩と冷たい色彩の結合をもつてゐる。すべてこれらのファンタジアは、構造的構成の部分においても、圖示的形態化の部分においても、甚だしく誇張されてゐる。建築的法式を練習するものとしては、このやうな構成圖は興味があり有益である。

第十四の構成圖は、最も大なる考案性をもつて優れてゐる。そのすべての形態化は、裝飾性が考慮されてゐる。このやうな構成は、劇場的建設物に利用することができる。このグループの中の上述の如きすべての建築ファンタジアにとつては、建造物の垂直的塊體の結合があるために、力學性を持つことが特色とされてゐる。

ト. 表現された空間性と力學的な諸徴候をもつた冀求性と壯大性の表示・構造的に統一された線的諸要素の結合

さまざまな性質の線のコンビネーションによつて、吾々は、證明的に明瞭な形式で、冀求性・偉大性・壯大性のあらはれ、乃至は傳へられる建築對象の重量のあらはれをさへ表示する可能性をもつてゐる。とりあけられた諸構成圖は、むろん平面や表面や立體が加はることさへなしに、直線及び曲線の助けによつて、吾々が求められてゐる問題或ひは提起されてゐる問題を得ることが出来るといふことを、

確固たる圖示的形式で證明することに役立つてゐる。提示されてゐる構成圖の各々は、その根本的な製圖法において獨自なものである。第十六の構成圖においては、垂直線の支柱の上に、曲線の「構成的」諸要素が横たわつてゐる。第十七、及び第十八の構成圖は、獨自な空間的形式の直線と結合する圓筒的環及び半環形を示してゐる。若干の場合においては、直線的「構成要素」の統一は、諸要素相互間のモノリス性と建造的關聯を傳へんとする冀求をもつてゐる。或る構成圖では色彩のあたゝかい色合が適用されてゐるが、他の構成圖では、——冷たい色合を、更にその後にあつては、混合的な色合を、適用するといふ具合である。これは、單に若干の多様性をもたらすのみでなく、課題の遂行に當つて吾々に興味をもたせてゐる諸モメントを強めるところのものである。

チ. 諸要素の表示的な獨自な縦軸的システムと形式の明白な力學的諸徴候をもつ空間的コンストラクション。

若干の建築ファンタジアは、縦軸的性質のこのやうな建造的解決の探求において、且つより完全な解決を發見する目的をもつて、この問題を圖示的に表現する可能性をあたへてゐる。強力且つ巨大な鐵骨支柱の表示（構成圖第七十二）は、獨自な形に結合された鐵骨建造の姿態において明瞭にデモンストレートされてゐる。この建築的表現において、吾々は、建造物の明白な靜力性の諸徴候を現はしてゐる。今一つの建築ファンタジア（構成圖第八十二）は全く別の狀景をあらはしてゐる。明白に考案せられた型の、縦軸の建造的統一の獨自な形は、その最大限の空間性のみならず、建造物の力學的表現せられた諸特徴によつて解決を示してゐる。「構成」諸要素の建造的結合の尖鋭さは、この建築ファンタジアを、その圖示的解決によつてのみでな

く、さらに特殊な建造的「調和性」によつて他の者の列の中から分出してゐる。このやうな調和性は、建築的勞作においては稀有なモメントであり、この種類のコンポジションを、多くの作品の中から區別してゐるものである。第八十二の構成圖において、吾々は更に前面と後面のはげしい對立を指摘することができる。後面は、支配的なものとしてあらはれてゐる前面に都合のよいやうに細かく描かれ、陰影づけられてゐる。またそれによつて、最もよき形式で、強調された場所を表示する可能性をあたへてゐる。

リ、表示された幹線をもつた、建造物の最も複雑にして集團的な聯結を表現する、平面圖的性質のアクソノメトリア的描出。

この種類の構成圖は、集團的性質をもつた諸物體のコンビネーションの一例の試みを表示することを目的としてゐる。或る共在的な状態における建造物の聯結は、以下の如くにして解決され得る、即ち、(一) 直線直角の幹線によつて、(構成圖=第五十、第五十二、第五十三、第五十七) (二) 直線斜線の幹線によつて、(構成圖=第五十五)。(三) 曲線と他の諸要素の參加によつて(構成圖=第五十一、第五十四、第五十六)° (四) 結合の結節的法式によつて、等々である。すべてこれらの作圖においては、物體の聯結のさまざまなコンビネーションが用ひられるが、しかしこの物體の表示は、極めて簡潔化された形でなされる。このやうな建築ファンタジアの解決においては、複雑化した型の物體の結合の一般的状態は、用ひられない。その圖示的表現の點では、若干の構成圖は他の構成圖とは異つてゐる。この場合に適用された條件的な手法は、作圖の可能な諸手法を全部究め盡してゐるものではない。しかしそれにも拘らず、吾々は、これらの建築ファン

タジアの構成の根本的原則について判斷する可能性を有してゐる。

ヌ、巨大な鐵骨的建造物をもつ、結合された建築の共在的統一の、複雑なコンビネーション。

工場建築においては、鐵骨格子的構造をもつた稠密な物體の聯結が最も大きな適用性をもつてゐる。性質のきわめて多様な建造物の相互間の結合は、疑ひもなく建築家にとつて興味のある課題である。吾々が、立體と鐵骨との結合の特殊性を注意ぶかく眺めると、一群の建造物においては(構成圖=第二十七、第三十七、第六十九、第七十一) 補充的な巨大な鐵骨の要素を備へた立體の強力な集團が支配的であるのを見るのである。他のグループにおいては(構成圖=第二、第八、第三十六、第三十九、第四十) 鐵骨格子的部分が、最大限に参加してゐる。鐵骨の型そのもの、及びその力は、その形態の上では極めてさまざまであり、開放的な軽いもの(構成圖=第三十六) モノリス的な強力なもの(構成圖=第八) に及んでゐる。鐵骨の建造的解決の方法は、極めて多様であり、各々の解決されたコンビネーションにおいて、さまざまに表示されてゐる。尙また、所謂「交互的」性質をもつた立體と鐵骨の同時的結合の一例の建築構成について言及しなければならぬ。これらの構成においては(構成圖=第六、第二十三、第三十八、第四十一) 立體或ひは鐵骨のいずれかを撰擇するといふやうなことはなく、建造物の性質は、この上述の要素のいずれかの個々の連環から成り立つてゐる。すべてこれらの連環は、同一の「構成分子」によつて相互に連結されてゐる。

ル. 純線的解決をもつたアクソノメトリーヤ的、透視圖的表現における建造物の構造的・空間的結合の表示的デモンストレーション。

コンポジションの線的表現の手法は、建築物の形態化の解決の最も興味ある段階の一つとして區別されるべきものである。参加してゐるところの線は、一般の構成的建築的課題と合致して、色彩づけられる。作圖は、オーソゴナルにおいても、パースペクティブにおいても、アクソノメトリーヤにおいても表現し得るが、最もよい結果が得られるのは、アクソノメトリーヤである（構成圖＝第六十五、第六十六、第六十七、第六十八）。パースペクティブ（水平線からの）においては、この課題を最も表示的に表現するために、線的方法で傳へることは困難である（構成圖＝第六十四）。掲げられた一群のすべての作圖は、純粹に圖示的方法によつて表はされてゐる。それらの作圖においては、作圖の段階において、線における立體の表現の問題を慎重に研究すべきである。あらゆる建築コンポジションに、そのより良き表現を賦與するためには、立體の各面を網目に分割することは、仕事の重要な段階の一つを成してゐる。或る場合においては、（構成圖＝第六十七、第六十八）上掲の如き性質の仕事の製圖の根本的原則を害することなしに、軽い「ほかし」によつて作圖を補充することも興味のないことではない。またこれらの仕事においては、描き切らない、といふ手法を是非とも適用しなければならぬ。と云ふわけは、すつかり描き切つた場合には、線的コンポジションはきわめて限定された表現的性質をとるといふことを指摘しておかねばならぬ。

ヲ. 建造物相互間の豊富な構造的統一が現存してゐる場合の、特別な視點より見た展望的な、最も複雑な、コンポジション的建築學的課題。

今までにあげた建築ファンタジアにおいては、さまざまな型の建造物のコンポジションをさまざまな視點から表示しようとするのであつた。そしてこの場合、各々のコンポジションは、それに最もふさわしい形式において圖示的に表現された。これは單に、「構成分子」の複雑をきわめたコンビネーションによつてのみでなく、吾々の企圖を、その最も完全な相貌において表示する可能性をあたへてゐる「特別な」視點によつて興味があるところの作圖が、遂行された仕事の或る完成となり得るのである。吾々が、この複雑な作圖において、特別な注意をあたへるのは、さまざまな相貌及び性質の建造物を、或る一つの全一な結合體に結合する一般的な調和的な結合にたいしてである、（構成圖＝第八十四、第八十五）。これに劣らぬ重要なモメントと見られるのは、その特別な解決において、表現で最も完成された展望をあたへてゐる製圖方法である。吾々の建築課題の解決のために一つに集められた「構成」要素は、若干の場合においては、獨自なる相貌をとり、この種の建築ファンタジアを組み立てる構成圖的方法が現存してゐる際には、例外的な興味をあたへるものである。

建築ファンタジア構成の以上列擧した十二の課題の概観は、いくらかの程度においてさへ、こゝに研究されてゐる領域で可能なかぎりの解決をなし盡してゐるものではない。これらの場合は、この勞作に引用された構成原則をさへも全部包含してはゐない。こゝで分析された

のは、彩色圖において成された建築ファンタジアの構成の根本的諸原則の一部であつて、この著書において同じくその獨特の相貌を有してゐる建築ミニチュアの表現の本質については、何一つとして語られてはゐないのである。

— 本文記事終り —

凸版挿圖説明

— A —

立體と平面圖のアクソメトリア的作圖。建築物相互間の、表示せられた空間性と構造的銜接性。

— B —

立體と平面の建築コンポジションのアクソメトリア的描出。水平と垂直の構成から成る延長型建造物の諸要素の、明白に建造的な聯結

— B —

立體的・平面的建築コンポジション。相互的調和の原則に立脚した建造物の諸要素の洗練された結合。

— Γ —

立體的・平面的建築コンポジション。直線的要素及び曲線的要素と球狀體との共在的な結合。

— Д —

アクソメトリア的描出における、連續的な屈曲せる諸要素から成る、明らかに考案せられた建築のコンポジション（第一ヴァリエント）

— E —

アクソメトリア的描出における、連続的な屈曲せる諸要素から成る、明らかに考案せられた建築コンボジション（第二ヴァリエント）

— Ж —

立體的・平面的建築コンボジションのアクソメトリア。圓周形的建築物が加はれる、水平及び垂直による力学。

— З —

立體的・平面的性質のアクソメトリア的表現。球體をもつた延長せる諸建築物の表示的な結合。

— И —

アクソメトリア的表現における建造物——屈曲せる立體から成る複雑なるコンボジション。考案せられたる構成。（第三ヴァリエント）

— К —

アクソメトリア的表現における考案せられたコンボジション。直線的性質及び曲線的性質をもつた延長せる物体の水平的な結合、複雑化された建築的・建設的設案。

— J —

脚柱の上に立つ建造物の、アクソメトリア的表現における複雑な
コンポジション。諸要素のダイナミックな、コンストラクチヴな接合。

— M —

立體的・平面的性質のアクソメトリア的構成。空間的性質をもつ
た、複雑化された建築コンポジション。

— 凸版挿圖説明終り —

彩色構成圖説明

1

輕工業の科學研究實驗所。その堅固性が表現された、結合的な、明らかにコンストラクチヴな建造物。建築の彩色づけの三色の色合は、冷たい調子においてなされてゐる。

2

工場建築の鐵骨的空間的コンストラクシン。縦軸的のコンストラクシンと立體の結合的・調和的な統一。彩色は、二色の明瞭に表現せられた「生の」色彩においてなされてゐる。

3

工場的性質の純粹にコンストラクチヴな建築コンポジション。その堅固性を表はしたところの^{コントロール}壁（パットレス）の適用。べつたりと緻密に彩色づけられる。

4

「産業のおしな」の一群中のもの。技術の世紀における完全なメカニゼーションの工場。建造に關係せる諸要素の調和的な機能的な聯關を體現せるもの。音樂的にハーモニアスな彩色。

5

強められた、ダイナミックに複雑な建築形式のデモンストレーション。特別な使命を有する建築の空想的建造。彩色は、生の色彩で成される。屈曲せる諸物體の結合。

6

空間的解決における、音楽的にリズムカルな、聯結・結合せられた建造物。立體と縦軸とのコンストラクチヴな遊戯は、色彩の着色との調和的なハーモニーを得てゐる。

7

塔のシステムをもつた化學工場。圓筒形と平行面體^{パレロペード}より成るコンポジション。明瞭に堅固な相貌をもつた、モノリス的性質の強力に銲接せられた設立物。

8

「産業のお伽噺」のグループの中の一つ。トランスポーターの露出せる鐵骨的コンポジション。空間的解決における強力に表現せられたコンストラクション。色彩的階調は、四色において作られてゐる。

9

モノリス的な銲接せられた諸要素^{エレメント}よりなる強力にして壯大なる、露出せる機械的設置。諸物體は、鐵骨的空間的コンストラクションと結合されてゐる。

10

垂直的に表現せられたコンポジションにおける巨大摩天樓の都市。色彩的階調は、あたゝかいオレンジ色及び黄色の色調において作られてゐる。條件的・圖示的な背景的加工が施こされてゐる。

11

根本的な中心が個々のグループを形成してゐる、壯大なタイプの建造物の、コンストラクチヴに結合された集團體。立體的・空間的解決の強烈なる色彩的着色。地上の陸橋的建造物。『未來の都市』のグループ中の一つ。

12

表現された突進性をもつ、集群的タイプの建造物を表はしたコンポジション。二色の嚴格な色彩的階調。

13

一列の摩天樓を、一つの全一的な完體に統一した複雑なる空間的統一。音響の音樂的階調の震動的性質をもつた、色彩的着色。

14

種々様々な構成要素から成る建築コンポジション的考案。明白なる色彩的裝飾性をもつ、建造物の種々さまざまな立體の複雑化されたコンビネーション。

15

垂直的に表現されたコンポジションにおける巨大建築物・摩天樓の都市。冷たい緑、青及び灰色の色調における色彩的階調。

16

明瞭にダイナミックな諸徴候を有する、建造的に結合された線的諸要素から成る空間的劇場的コンポジション。

17

建築の空間的考案。表示された突進性。物體の壯大性のデモンストレーションと生の色彩をもてる環狀線、曲線、及び直線の結合の助けによる宏壯性の傳達。

18

垂直と水平の力學。突進性と宏大性のデモンストレーション。圓い環線と直線及び曲線より成れるコンポジション。

19

曲線及び直線の結合の、線的性質のコンポジション。重量の力學が表現された宏大な物體のデモンストレーション。

20

線的表現における、諸立體の最も複雑な結合のコンポジション的考案。強力に表現された空間性。彩色はあたゝかい階調をもつてゐる。

21

空間的・格子形的・線的コンポジション。色彩的階調において表はされた、劇場建築的性質の壯大なモノリスのデモンストレーション。諸要素の縦軸的建造的結合。

22

明瞭に構造的な建造物・設置。堅固性、支柱、重厚性、及び諸要素相互間の明白な銲接性の模範的な表現。全建築からは壓倒的な陰鬱なる印象がうけられる。

23

條件的に色彩的な表現における工場建造物の複雑なコンポジション。縦軸的・枠架的・モノリス的コンストラクションの結合。

24

表現された構造的な構造性をもつた、統一された諸建築物の整然たる階調。形式の突進性と静力性^{スタチク}の表示的な同時的統一。建造物の彩色は簡潔された手法をとつてゐる。

25

精確機械學の對象物を電氣力によつて加工するところのコンパイヤーのシステムの工場。二色の反對的な色彩をもつた、一致せる全一的な建造物に構成されたる最も簡単な建築形式のコンポジション。

26

飛行船用のガス及び油の企業結合のアクソノメトリヤ的表現。球狀的建造物のデモンストレーション。彩色は冷たい緑と青の色調においてなされてゐる。平面圖を明白に表示してゐる。

27

密閉せられたる工場建造物のコンポジション。建築の塊體の銕接的コンストラクションは、鐵骨造起重機と陸橋を框にはめた點にみられる。強烈な色彩的色調的彩色。

28

形式と結合の點では複雑な建造物の諸要素の、空間組織化の空想的なコンポジション。構成要素の表現的なコンセントレーションと建造物の諸物體の獨自な結合のデモンストレーション。強力に表現せられたる力學性。

29

安靜な、完成された、最も簡單な形式における一列の建造物・屋舎のリズミカルな結合。色どられたる背景を後ろにして、建物の全物體が確然と表現されてゐる。

30

建造物の個々の環が全一な建築に嚴格に統一されたもの。色調の靜かなる階をもつた簡潔化されたコンストラクションは、明瞭に可視的な諸徴候をもつてゐる。

31

建造物の個々の部分を全一な合成された建物に結合せる厳格なる統一。静力的解決における簡潔化された形式。建物の角の加工の強調されたる水平線重心と垂直的突進性。

32

一つの全一な建造物に統一された建物の^{コンパクト}合成的建築的課題の表示的な圖解。簡潔化された形式と宏大性との調和。

33

モノリス的性質の合成的・構造的建造物。基本的な諸物體に明瞭に分割された完成された種々なる性質の立體の結合。

34

立體の最も單純な相貌の建築的諸要素を工場製作所の型の建物に合成したる、厳格に建造的・合成的な結合。建物の平面に沿ふて、平塗に塗りつぶした二色の彩色。

35

鐵骨的空間的コンストラクションをもつた建造物の密閉せられた塊體の結合。稠密に群成された姿における建築物相互の偶然的な統一のもとに際しての、陰鬱な壓迫的な印象を傳へてゐる。

36

靜的性質の建築物の、最も單純な形式を伴ふ、空間的縱軸的コンストラクションの表現的なデモンストレーション。

37

格子形の空間的コンストラクションをもつた建造物の諸立體の複雑な結合のコンポジション。集中化された性質の構成諸要素の堅固なる階調。

38

鐵骨的コンストラクションをもつた、最も單純なる塊體の統一されたる結合。支柱の上に立つた建造物の型の表示。建物相互の平衡せる結合。

39

強力な格子形の鐵骨造支柱の上にたてられた建造物の、特質的に表示せられた空間性。建築諸部分相互の調和的な建造的統一。

40

特別な使命をもつた工場のコムポジション。密閉せる塊體を補充された縱軸的性質のリズミカルに調和的な諸要素の整然たる空間組織化

41

垂直的の要素とコンストラクションの變型化をもつた工場=製作所の建築コンポジション。大きな量の格子形の鐵骨の建造物と密閉せる物體との統一についての明瞭にして嚴格な課題。

42

建造物の構造的に統一されたモノリス的諸要素のデモンストレーション。物體の統一の表現された重量性と構成諸部分の重厚な簡潔性。

43

アクソノメトリア的表現における複雑な建造的コンポジション。考案せられた結合による、直線的及び曲線的性質の建造物の効用的に延長化された諸要素の適用。

44

工場=製作所の型の機能的な建造物のアクソノメトリア的表現。立體的・平面的表示的課題。

45

「實驗所=研究所」といふテーマにおける立體的・平面的性質の整然たる調和されたコンポジション。條件的に藝術的な圖示的手法をもつた強烈な彩色におけるアクソノメトリア的表現。

46

立體・平面的、表示的建築コンポジション。表現された空間性を伴へる統一された諸要素のデモンストレーション。

47

アクソノメトリヤ的表現における、立體・平面的建築コンポジション。特別な視點からなされた建造物の表現の、わざと誇張せられた手法。最も單純な色彩的階調。

48

建造物を立體・空間的諸要素の全一的な聯結的に結合の中へ調和的合成的に統一したるもの。建築物の明瞭に表現された設計。描出は刺戟的に新鮮な彩色をされてゐる。

49

複雑な^{タイプ}型の建築考案。構造的な諸基礎における、曲線形式と直線形式の統一。

50

特別な使命を有する企業結合の^{コンビナート}アクソノメトリヤ的コンポジション。設計の嚴格な構成、色彩は冷たい階調において彩られてゐる。

51

考案せられたる幹線マギストラルのある空想的工場コンビナートのアクソノメト
リヤ的表現。あたゝかい色調（赤・黄・灰色）

52

表現せられた幹線マギストラルのある機械化された化学コンビナートのアクソノ
メトリヤ的表現。圖示的表現の條件的手法。明確な細分された表現の
範例。

53

簡潔化された立體の行動の幹線のコンビネーションにおける考案せ
られた社会主義都市のアクソノメトリヤ的表現。さまざまな大きさの
建物を、或る豫じめ考へられた間隔をおいて結合してゐる。

54

建造的に銕接せられた解決における、建造物の簡潔化された諸立體
のアクソノメトリヤ的表現。建築物の諸グループのある緊密な結合に
おける一區域の、設計の表示的な表現。

55

狭小にされた幹線をもつ、機能的に解決された工場都市のアクソノ
メトリヤ的表現。建築物の諸グループの、或る複雑な結合における
簡潔化された條件的な表現手法。

56

純粹に空想的な性質の建築スケッチ。明瞭な考案性と建築的案出の諸徴候がみられる。黒い背景における、明るい色彩でなされたファンタジア表現の技巧的手法。

57

平面的・立體的解決における建築的アクソノメトリア。機能的なりズミカルな組成における、建造物の集團。

58

表現された結節的幹線をもつた、新らしい産業都市の獨自的に誇張されたアクソノメトリア。色彩的階調をもつた平面圖的課題の考案せられた描寫的表現。

59

屈曲せる表面と直角の平面の結合から成る空間的に複雑な、彩色されたる劇場のコンポジション。

60

一列の縦軸的檣樑から成る彩られた線圖的コンポジション。硬いコンストラクションの助けをもつた空間性の表示。

61

木造の檜樓の建築的コンポジション。関係せる諸要素の色彩の、故意に案出せられた冷た。階調。積み重ねられた諸部分の助けによる建造的諸要素の開放性のデモンストレーション。

62

鐵骨支柱（電柱）° 金屬的コンストラクションの空間表現と、コンポジション的取扱方の範例。

63

限定された色彩による彩色をもつた金屬及び鐵コンクリートの諸要素の、堅固な簡潔化されたコンストラクション。

64

線的描出によつて表はされた、組合せられた建造物のパースペクティブ的表現の表示的デモンストレーション。

65

色のある線の表現によつて表はされた、建造物の構造的・空間的結合の表示的デモンストレーション。

66

彩色された線的表現によつて表はされた建造物の機能的に結合された集成體の、アクソノメトリア的描出。空間的課題の範例的な演習。

67

空間的建築コンポジションの線的解決。關係せる諸立體の複雑なコンビネーションを、アクソノメトリアにおいて圖示的に表はしたる表現において、獨自に鼓舞的に圖解してゐるコンポジションである。

68

表現の複雑な特殊な構成的取扱方を表示的に圖解してゐる建築考案。表示された空間、豫じめ與へられた組成の色彩の條件的な結合。

69

明白に表現された空間性を有する、特殊な使命の複雑な建築。縦軸的要素と塊體的要素との相互間の、明瞭に建造的な聯結。

70

移送システムの生産による機能的工場建造物の塊體の、嚴格に基礎づけられた結合。靜的な平衡的な形式の結合にして、この形式は、現實的な冷たい色彩によつて表はされてゐる。

71

結合された強力な建築物と巨大な鐵骨的建造物との統一の複雑なコンビネーション。過度の推積性。關係せる諸要素の彩色の柔かき階調

72

工場的性質の明瞭な静學^{スタチスチク}的建造物と統一された鐵骨の壯大なコンストラクション。前面よりせる後面のパノラマ的表示。反對色的彩色。

73

モノリス的構造の工場。強力な煙突と、圓筒形の塊體と、複雑な密閉せる鐵骨と直角的塊體との統一的結合。壯大なる、嚴格に結合されたコンストラクションにおける、現代的工場の體現。明白な落ちついた彩色。

74

表現された空間性と力學性ともつた、構造的に接合された肋骨的要素の複雑なコンビネーション。あたゝかい色彩。

75

工場的性質の建築物の、精確、明白且つ簡潔な統一物。建造物の律動的に論理的に接合せられた諸要素。

76

補充的コンストラクションの最大限の豊富化をもちたる、複雑な屈曲せる回旋體の建造物の集積せる集團體。

77

明瞭に表現せられたコンストラクションと、背景建築物の顯然たる力學をもてる、建築の指示的外面。後面及び前面の建造的表現の範例的な一つの場合。

78

空想的な、明白に考案せられたコンポジション。描出と背景の、豫め考案された色彩的コントラストを有せる、條件的表現方法。簡潔化された前面と、複雑化された後面。

79

建造物の強力なる拍持臺と、露出せる設置の複雑な構造的なコンポジション。建築物の一部は強烈な色彩がつけられてゐる。

80

複雑化された形式の建造物の、完成された型の表示的な構造的なコンポジション。生の、重味のある色彩。建造物の整然たるリズムカルな展望圖。〔産業のお伽噺〕のグループの中の一つ。

81

複雑化された形式の建造物の、完成された型の、表示的な構造的なコンポジション。〔産業のお伽噺〕のグループの中の一つ。櫛比せる物體と鐵骨の要素との混合。精細化された後面。

82

産業的な性質の建築的考案。張り出された型の、諸要素の表示的な縦軸的システムをもつた空間的コンストラクション。建造物における強められた力學性のデモンストレーション。

83

産業的テーマにおけるコンポジション。工場建築を背景とする強力なエスケプツートル。エスケプツートルは、一色の冷たい色調。完成された前面とスキーム的な後面。

84

建造物のある全一な結合に統一された建築の複雑をきわめた統一を表示せる模型的建築コンボジション。表示的な彩色の建築グラフィック。

85

最も複雑な建築課題。密閉的な建築要素と格子形的鐵骨との統一の表示的な表現。描出の複雑なパノラマ的性質。

86

アクソノメトリヤ的表現における、明瞭に表現せられた空間的建築的コンボジション。冷たい色調の落ちついた階調。

87

空想的な性質をもつた音樂的な建築コンボジションの考案。構成と描出の彩色との調和せるリズム。

88

アクソノメトリア的解決における、平面的・空間的建築コンポジション。描出の技巧的な圖示的手法。

89

線的性質の、考案された複雑な空間的コンポジション。混合彩色をもつた曲線と直線のコンビネーション。

90

建造物の、特質的な渦形持送の諸要素をもつた産業的建築。鐵骨的な附加物をもつた立體の集積せる集團。

91

産業的性質をもつた、建造的に銲接された建造物のアクソノメトリア的表現。明色で部分的に彩色された背景の上に、鈍重な調子においてなされた、建築コンポジションの重々しい彩色。

92

機能的工場の、複雑な銲接された建造物のアクソノメトリア的描出。冷たい色調における建築構成と、あたゝかい背景との軽い彩色。

93

中央書庫と技術館の圖書館。單純な立體をモノリス的性質の全一な建造物に結合したもので、あたゝかい色調の彩色をもつてゐる。

94

重工業の企業結合の科学研究実験所。建築の最も単純な諸立體を、一つの全一な建造物に統一したもの。架構的な鐵コンクリートのコンストラクションにおける表現。

95

アクソノメトリア的構成における、明白に考案せられた建築コンボジション。表現とその彩色の條件的取扱方の一例。網線が張り渡されてゐるコンストラクションのデモンストレーション。

96

明瞭に空間性を圖解した、複雑な建築コンボジション的課題。特殊な鐵骨の表現を圖表面に配置する表示的・條件的手法を示せるもの。

97

複雑な構成圖の、鐵骨の圖示的線圖的課題。描出の獨自な取扱において表現せられた空間性。

98

力學性が強調された建築建造物のデモンストレーション。特別な重味のある視點よりせる建築作品の短曲圖的表現。技巧的手法によつて表現せられた明暗の様態。

99

堅固な鐵骨の支柱的部分の表示をもつた、高架的性質の建造物。強力な前面の誇張された細分。建築コンポジションの條件的な彩色。

100

前面と後面のコンポジション的結合。建築的空間的アンサンブルの特別な視點の表示的デモンストレーション。パノラマ的繪畫的コンポジション。

101

産業的性質の建築外貌。建造物の、特に複雑な諸要素を、鑄接的に構造的に結合統一したもの。

—— 構成圖説明終り ——

建築ファンタジア
(原書への邦訳附録)

昭和八年九月三十日印刷結本・昭和八年十月四日發行

不
許
製
復

著者 大竹博吉
發行者 東京市神田區南神保町二 大竹博吉
印刷所 東京市小石川區林町四三 新興社印刷所
原書賣捌 丸善 三越 三省堂 上田屋 明治書房
發行所 東京市神田區南神保町二 ナウカ社
電話九段五五九・櫻井東京八〇一四七

非賣品

特 216

791

終